

< MVP: 最高の笑顔で働く社員 >

求められる“モノづくり”の感性

このコーナーでは、目覚ましい活躍をした社員や将来有望な社員を顕彰します。第4回目は、企画部長の河野嗣寿(このの・つくひさ)さんです。

私は1999年11月、縁あって加山興業株式会社に入社しました。当初の約1年は、破碎・選別の現場から収集運搬車のドライバー、焼却施設の運転などの業務に携わりました。そのあと現場リーダーの任を受けました。

その期間を通じて感じたのは「この仕事は天国だ」ということです。私は前職で、機械部品メーカーの工場に勤務していました。工場の責任者でしたので、短期納品への対応や外部委託業者との調整、お客さんへのクレーム対応にと、寝ている時間以外はずっと働いているような毎日を送っていました。

一転して、産業廃棄物処理業の仕事は、納期が無いに等しく、厳格に品質を問われることもありません。しかし現在は、資源の循環系なかで「静脈」と「動脈」の距離が近くなり、品質を問われる時代へと入っています。

例えばRPFであれば、ユーザーの多くは「動脈」の大手企業です。RPFも製品として見られます。この品質にどう応えていくのが私たちの仕事です。世の中のもの、いかに規格内に納めていくのか、河川汚染防止法の要を作るのか、そういった「感性」が、この現場でも求められることを認識し、日々の仕事に生かす必要があります。



産業廃棄物の取扱量が月間3000tに RPF生産量は対前年同月比で倍増を達成!



<トピックス>

選別効率アップで「仕事の質」にもこだわる

RPF工場はメンテ充実で設備能力の頂点へ

加山興業では、産業廃棄物の取扱量が11月、月間3000tに達しました。選別を担当する人員は、2名増やして全10名の体制に。次のステップである4000tを目指し、営業と現場が一体となり日々の業務に動んでいます。また、量だけではなく、選別効率をさらに向上させるべく、「仕事の質」にもこだわっていきます。

今後は、動機体系の見直しを回り、現状の3直2交代から4直3交代へと近く移行する計画です。これにより、労働効率をさらにアップさせ、RPF工場の上限生産能力である月間1600tへと限りなく近づけていきたい考えです。そのためには、従来以上に小まめにメンテナンスを施すなど、設備能力を安定して充分に発揮できる環境を作っていく必要があります。

産業廃棄物と選別量の増加は、RPFの生産量にも反映されます。2007年10月に発生した、火災事故から1年余りが経過し、生産量はほぼ倍増の月間1100~1200tペースを維持するまでになりました。

また、さらなるKayamaの挑戦が始まります!!

Topics

- ①ライオンシュレッダー
- ②混炭磁力選別機
- ③木くず切り搬入ダンパー
- ④木くず金属検知機



廃棄物のことなら当社にお任せください!!

●WEBカメラ作動中! ●当社車両全てにGPS搭載!!



場内WEBカメラを使用しリアルタイムに廃棄物の処理工程をご確認頂けます!

見学随時受付中!

<p>押出成形RPF燃料化 処理能力192.96t/日</p>	<p>選別-8品目- 処理能力751.92t/日</p>	<p>焼却-12品目- サーマルリサイクル 処理能力15.1t/日</p>
<p>木くず 処理能力105.14t/日</p>	<p>蛍光灯 処理能力1.2t</p>	

とっても頑張るゴミ屋さん!!
加山興業株式会社 山崎P <http://www.kayama-k.co.jp>
 Industrial Wastes Disposal Co.,Inc E-mail info@kayama-k.co.jp
豊川営業所・リサイクルプラント
 〒443-0008 豊川市新千代町1番
 TEL.0533-80-0375 FAX.0533-84-3738

加山興業社は、インドにおける環境ビジネスの可能性の探究を目的とし視察を編成し、2008年11月25日から30日までの6日間、現地に赴きリサーチ活動を行いました。今回は、そのようをお伝えします。

インド、廃棄物視察レポート

インドの法律に関しては、英国の影響が色濃く反映されており、進んだ法律ができています。しかし、施行については、今後への課題を含んでいるようです。実際に、医療系廃棄物を焼却処理するまではよいが、その後の焼却灰の処理などは規定されていない。有害性な可能性のある処理物は、無害化処理の必要性が指摘されていました。

インド国内のプラスチック系の廃棄物は、様々な問題を含んでいます。年間4000万tの生産量に対し、2000万tがごみになっています。政府は、70%近くはリサイクルしていると公表していますが、リサイクル工場が零細企業で、安定的に処理ができないことが問題のようです。

デリー市では1日8000tのごみが発生

今回の視察先、インド北部の大都市デリーは、人口約1100万人で、歴史と近代性が融合するアジアでも有数の美しい都市。しかし、デリー市内の高速道路には牛や象がゆったりと歩行。特に象は荷物運びにも役立っており、道路を車と一緒に進んでいる様子は、ある種信じがたい光景でした。

大手銀行の屋根の上を野生の猿の親子が走り、野良犬がごみ箱を漁っている様子も、人々はひとつの風景として受け止めているようでした。リスやイタチのような小動物も走り回っています。



加山興業社インド視察団

一方、デリーでは1日約8000tの廃棄物が発生しています。人口1100万人で割ると、1日ひとり当たり、約730gの廃棄物を出している計算になります。

増大する5つの「ごみ山」

デリー市内のごみ回収は、早朝、朝9時ごろには、渋滞が始まり、ごみ回収どころの騒ぎではありません。夕方6時前後も同じ。ごみ回収車は、デリー市内にある5カ所の大きな「ごみ山」に搬入します。これに「ごみ山」は日増しに巨大化し、市内中心地に向い迫っているとのこと。この「ごみ山」のひとつを視察しました。

市内から車で約30分走ると、ごみ山のひとつ「GAZPUR(ガジプール)」が見えてきます。入口には、トラックスケールが置いてあり、すべてのトラッ

クを計量しています。

ガジプールは5つのごみ山の中では、比較的小さなタイプだが、面積は30エーカー(約12万㎡)で、高さ25m、地下25mのごみが積もっています。1984年から、この山にごみが増え入されています。

搬入トラックは、1日500台、ごみ量は約2000tにのびます。トラックは、67%が政府の車、33%が民間の車です。民間の車は、1t当たり205ルピー(約410円)の処理料を支払っています。ごみ質を目視で分析すると、建設現場などから発生する砂や土が5割程度、家庭から出る紙やプラスチック系のごみが2~3割、ほかは生ごみといったところでしょうか。

このごみ山ガジプールには、100人以上がごみ拾いで生活をしていました。プラスチックを拾うと1kg当たり6ルピー(約12円)で売れます。一家族で、1カ月約7000ルピー(約1万5000円)の収入になるとのことでした。



ガジプールのごみ山



増大するインド・デリーの高速道路